

「九合一」統一地方選挙概要（2014年11月上旬～12月上旬）

国民党歴史的な敗北、民進党大躍進

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

11月29日に投開票が実施された九合一選挙（統一地方選挙）は、与党中国国民党が現有15ポストから、直轄市の台北、桃園、台中の三市を落とすなど9県市で敗北し6ポストにとどまった。一方、最大野党の民主進歩党は重点選挙区として重視していた台中のほか、桃園、彰化、基隆などでも勝利し、現有6ポストから13ポストへと大躍進した。注目の「首都」台北市は、無所属の柯文哲が国民党の連勝文に圧勝した。

選挙結果を受けて、江宜樺行政院長が政治責任を取り辞任したが、馬英九総統は当初敗戦に対する謝罪をしたが主席辞任を言明しなかった。しかし、その後、党内外からの批判を受け最終的に党主席を辞任した。江院長の後継には毛治国行政院副院長が昇格就任し、新内閣が発足した。なお、直轄市長以外の選挙に関する内容は次号で報告する。

1. 選挙前の情勢

年々、選挙特有の熱気も逡減されて普通の民主国家に変わりつつある台湾であるが、選挙月の11月は、9月以降食品安全問題に奪われていた紙面の主役の座を奪回し、連日選挙関連のニュースが一面トップを占めるようになった。

投票前日の11月28日付当地各紙は、与野党関係者の今選挙における目標、見通しを紹介した。国民党の関係者は、県市長ポストに関し、「現有15議席の防衛を目指す、かなり困難である」とした上で、「6県市で接戦を演じているが直轄市は現有4ポスト（台北、新北、桃園、台中）を死守したい。台北と台中が鍵であり、どちらかを落とせば敗北であり、二つ落とせば大敗、さらに民進党が重視する中部の他都市を落とせば、惨敗である」と述べた。（実際にそのようになった。）

民進党は、選挙事務にかかわる幕僚が、「現在民進党が執政している6県市のほか、基隆、台中で安定した戦いを展開している。8議席の確保は堅く、彰化、南投、嘉義市、澎湖県が膠着状態であるが、保守的に見積もって10議席を確保し、最大

で12議席を目標とする『坐8槍12（8議席確保、12議席を奪う）』』と述べているところがあった。

今回の選挙の意義について、『聯合報』は、馬総統にとって再選後の「信任投票」であり、国民党政権にとって政権防衛のための前哨戦であるとし、直轄市を含む総得票数も重要であり、もし敗北するようなことがあれば、馬総統はリーダーとしての威信を失い、党内では第一線から退くべしとする圧力が高まるであろうと論じた。

民進党に関しては、「中部台湾の勢力図をひっくり返す」と強調したように、南部での勝利を前提として、台中市を獲得できれば、蔡英文主席の党内における地位は確固としたものになるだけでなく、2016年総統候補の入場券を獲得する大きな助けとなるであろうと論じた。

2. 県市長選挙の結果

11月29日に投開票が行われた統一地方選挙は、与党国民党が直轄市の台北、台中、桃園で敗れたほか、他県市でも惨敗し、現有15ポストから半減以下の6ポストの獲得にとどまった。最大野

党の民進党は、台南、高雄等南部で大勝し、桃園、台中を奪取したほか、中部大票田の彰化県、国民党にとって南部の橋頭堡であった嘉義市のほか、新竹市、離島の澎湖県でも勝利し、現有6ポストから倍増の13ポストを獲得した。今選挙で最も注目された「首都」台北市は、緑系無所属の柯文哲氏が大勝した。花蓮、金門では藍系無所属候補が国民党候補を退けた。表1は政党別県市長ポスト数を記した。(表1)

また中央選挙委員会は県市長選挙の投票率が67.59%（直轄市66.31%、直轄市以外の県市70.40%）であったと発表した。

同結果につき台湾各紙は「国民党大潰敗」(聯合報)、「緑狂奪13県市 藍大崩盤」(りんご日報)、

「国民党輸到剩總統府」(中国時報)、「人民選票 狼狽教訓馬」(自由時報)と国民党の歴史的な大敗、民進党の大躍進を報じた。

『中国時報』は、今回の選挙における国民党の壊滅的敗北は1949年に台湾に撤退して以来最も悲惨な結果であり、台湾西部は台中以南は民進党が執政することになったと指摘したほか、他紙も国民党の勝利が予測された、桃園市、新竹市でまさかの敗北を喫したほか、大勝が予想された新北市も、得票率2%以内の辛勝となったことが大きく報じられた。

図1は最近10年間の台湾の選挙における国民、民進両党の得票率の推移を示したものだが、今選挙では民進党が得票率でも国民党を7%近く上回ることとなった。(民進党47.55%、国民党40.70%)

同選挙結果を受けて、惨敗を喫した国民党は、江宜樺行政院長が「施政が台湾住民の支持を得られなかった」として引責辞任した。一方で、国民党は開票当日記者会見を行い、馬主席自ら「深刻な敗北であったこと」を認めたが、「涙を拭き去り、更に団結して、引き続き党のため、台湾のために

表1 政党別県市長ポスト数の変化

政党	改選前	改選後
中国国民党	15 (4)	6 (1)
民主進歩党	6 (2)	13 (4)
無所属	1 (1)	3 (1)

注：() は直轄市長議席

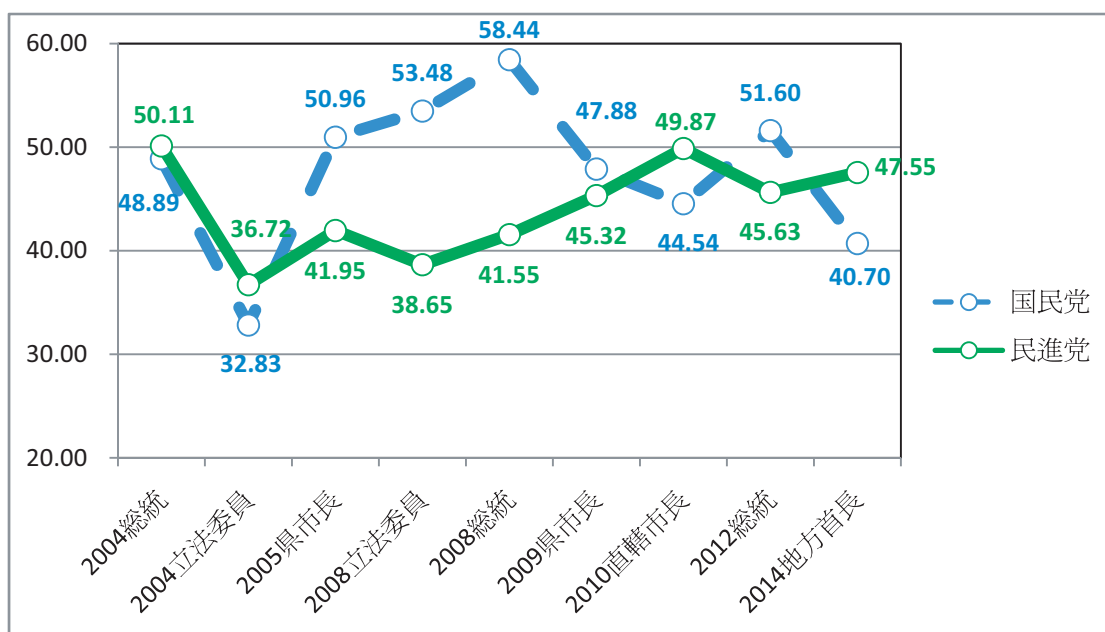


図1 最近10年の重要な選挙の二大政党得票率の変遷

資料元：自由時報「近十年重大選挙、民兩黨得票率走勢圖」(2014年11月30日)頁1。

奮闘していく」として改革の決意を示しただけで、自らの責任については触れず、曾永権秘書長が辞任したのにとどまった。国民党は、昨年党規約を改正し、政務と党務の間に齟齬が無いように「同党主席が総統職にある間は、総統就任から退任時まで党主席を兼務する」となっており、馬氏が総統職にある間は、党主席のポストも保障されていた。しかしながら、内外の厳しい指弾を受け、12月3日に党中央常務委員会で正式に主席を辞任し、代理主席には呉敦義副総統兼副主席が就任することとなった。この間の馬総統の対応に関しては、「どうせ辞めるなら早く辞めるべきだった」、「往生際の悪さだけが際立った」等、印象の悪いものになった。なお次期主席選挙は2015年1月中にも実施される予定である。

民進党は、選挙期間中「地方から中央を包囲する」のスローガンを掲げたが、結果はその通りとなった。開票日の夜、蔡英文主席は蘇貞昌、謝長廷元主席ら党幹部を伴い記者会見に臨み、「今選挙は民進党結党以来の勝利となったが、この結果は台湾人民の勝利であり、青年世代が責任を担う始まりになった」と指摘するとともに、「政府が国民の側に立たなかった時に、国民は何時でも権力を奪い返すことを示した」とし、今回の国民党の

失敗は我が党にも教訓とするべきものであることを強調した。蔡主席の会見は、勝利に浮かれた様子は微塵もなく、世論に背く施政を行なえば、国民からいつでも唾棄されることを自ら戒めながら、支持者、党員に語りかける口調が、印象的であった。

3. 直轄市長選挙の結果

六都市全ての選挙区で馬政権への不満という大きな流れが影響を与えたことで、国民党候補は予想外の苦戦を強いられた一方で、民進党候補はまさかの勝利、予想外の大量得票を獲得した。

(1) 台北市 柯文哲氏が予想以上の圧勝

最も注目された選挙区の台北市は、事前の予想通り、無所属の柯文哲氏が圧勝した。選挙戦終盤で、連勝文陣営は資金力に物を言わせ、大規模な空中戦（メディア広告）、地上戦（組織動員）を展開したが、最後まで同人は「権貴」（特権階級）のレッテルを覆し、中間層に浸透することができなかった。

柯氏は、全体的な情勢が非国民党候補に追い風であったのに加え、相手陣営の「失策」に助けられた面もあったが、選挙戦で見せた「三不選挙戦

表2 直轄市長選挙の得票数、得票率

市	当選	主な候補者と政党	得票数	得票率	投票率
台北市		連勝文 (国)	609,932	40.82%	70.46%
	◎	柯文哲 (無)	853,983	57.16%	
新北市	◎	朱立倫 (国)	959,302	50.06%	61.65%
		游錫堃 (民)	934,774	48.78%	
桃園市		吳志揚 (国)	463,133	47.97%	62.73%
	◎	鄭文燦 (民)	492,414	51.00%	
台中市		胡志強 (国)	637,531	42.94%	71.83%
	◎	林佳龍 (民)	847,284	57.06%	
台南市		黃秀霜 (国)	264,536	27.10%	65.88%
	◎	賴清德 (民)	711,557	72.90%	
高雄市		楊秋興 (国)	450,647	30.89%	66.44%
	◎	陳菊 (民)	993,300	68.09%	

略」(三つの〇〇をしない選挙戦略)、「ネガティブキャンペーンをしない」、「大規模集会を行なわない」、過去の選挙で弱者である非国民党関係者が用いてきた「同情や族群対立を煽るカードを切らない」は、筆者も含め新鮮なものに映った。柯氏本人は、イデオロギー的には「独立派」に属することを隠そうともしなかったが、選挙戦では蔡主席など緑陣営のスター、大老はほとんど柯氏の応援に来ることはなく、独自の戦いを貫徹したことが歓迎されたようであった。しかしながら、終盤の藍陣営の動きを考えると得票率 17% 差は想定外の大差であった。同市長選挙の投票率は終盤の盛り上がりを反映してか、当初の予想より高い 70.46% であった。



投票前夜の柯文哲陣営の集会の様子

(2) 新北市 朱立倫市長が惨勝で再選

国民党の劣勢が予測される中で、朱市長の再選は最も容易に予測されており、再選を前提に「どれだけの得票数、得票率を獲得するか」、「選挙後にポスト馬英九の後継レースでトップに躍り出るか」など取り沙汰されたが、結果は得票率約 1.3%、得票数でも約 2 万 5 千票差という薄氷を踏む再選であった。一方で民進黨は、「不戦敗」とも揶揄された元行政院長の游錫堃は荣誉ある敗戦となった。

朱市長の施政満足度は比較的良かったことから、今回の辛勝による再選は今選挙におけるサプライズの一つとなったが、同市長選の投票率は 22 県市の中で、金門県に次ぐ下から二番目の 61.72% という低さを考えると（金門県は 45.20%）が、馬政権の施政に不満を持つ藍軍陣営支持者の多くが、棄権したとみられる。また前回の選挙で 111 万票を獲得した得票数は約 15 万票も減らすこととなった。

再選確定後、記者会見を行なった朱市長の表情が青ざめていたのは、同人の心情を表していた。ポスト馬のレースで先頭を走っていた朱市長の今後の身の振り方にも微妙な影響を与えることが予想される。

(3) 桃園市 大番狂わせ！民進黨が 13 年ぶりに奪還

桃園市も新北市と同様に、国民党が強い地域であり、直前の世論調査も含め現職の呉志揚が圧勝で再選との見方が強かったが、民進黨の鄭文燦が「逆転勝」できた背景には、呉氏の家族が三代続けて桃園で首長を務める「権貴」であることや、副市長のスキャンダル、中央政権の施政に不満な藍軍支持者が棄権を選択し、62.81% という低投票率に終わったことなどの影響を受けた。呉市長は年齢も 40 代と若く、国民党次世代の有望株であったが、今選挙では大きな挫折を味わうこととなった。

(4) 台中市 林佳龍が施政 13 年の胡志強市長を大差で破る

直轄市の中では、台北市に次ぐ注目選挙区であった台中市は、民進黨が重視する台湾中部の拠点であり、4 年前の選挙で大善戦した蘇嘉全元秘書長が陣頭指揮をとったほか、選挙戦終盤は蔡主席が同市を中心とした中部地域に張り付き、林候補を応援した。

投票4日前林候補は、彰化県長候補の魏明谷委員とともに立法委員を辞職し、退路を断ち切り背水の陣の姿勢で戦ったことが有権者に評価された可能性もある。(注：台湾の公職選挙法では国会議員から地方首長への選挙出馬の際に議員辞職する必要は無く、仮に市長選挙に落選しても立法委員の地位は保つことができる。)

旧台中市長の2期9年を含め13年もの間、台北市長である胡市長への「多選批判」の風当たりは予想外に強かったが、現職市長が得票数20万票以上、得票率14%もの大差をつけられたのは、予想外の結果であった。

投票率は接戦が予測されたこともあり、直轄市の中では最高の72.00%であった。

(5) 台南市 頼清徳市長が記録的な圧勝で再選

最も再選が有力視され、結果が分かりきっていることから、世論調査も余り行なわれなかった台南市長選挙は、現職の頼市長が72.9%という驚異的な得票率で再選した。今得票率は、今回の統一地方選挙における最高得票率であっただけでなく、過去の直轄市長選挙で2002年に馬英九台北市長が記録した64.11%を破る新記録となった。これだけの大差がついたのは、頼市長の施政への支持に加え、国民党候補が泡沫候補で弱すぎたことが原因であった。

(6) 高雄市 陳菊市長が最多得票で再選

新旧高雄市長を二期8年努めた陳菊市長が、4年前に続き元高雄県長の楊秋興を一蹴した。得票

率こそ68.09%と頼市長には及ばなかったものの、得票数では、今選挙で低投票率に終わった最大有権者数を誇る朱新北市長を上回る99万3300票を獲得し、全国最高得票者となった。

今夏に発生した爆発事故、8月の洪水災害など、国民党は陳菊市長の施政を批判したが、高雄全体で「反陳菊」の流れは起きず、前回の選挙より投票率は約6%下がったにも関わらず(72.52→66.55%)、得票数が11万票も増えたのは高雄市民の同市長への幅広い支持を示した。

4. 選挙を終えての雑感と今後の見通し

今回の選挙は既に多くの論評がなされているが、「国民党の敗北であり、民進党の勝利ではない」。民進党首脳の見聞記者会見における笑顔なき表情は、この勝利をどう受け止めるべきか模索しているようにも見えた。しかしながら、今選挙で民進党は「国民党政権への不満を吸収する受け皿になりうる存在であることを再確認させ、次期政権を担う責任政党として国民に付託される可能性を大いに示したこと」は間違いのないであろう。

国民党は、再起を期して来月にも党主席選挙が実施されるが、次期総統候補の選出とも関連し、すでに水面下では駆け引きが始まっている

民進党は、蔡主席の党内における地位は更に固まり、2016年の政権奪回に向けて大きな弾みとなった。しかし、今後は「反対するだけの野党」というイメージを拭い去り、責任ある準執政党として、与野党間で大きな対立を抱える兩岸政策はじめ、理性的な対応が求められることになる。